

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ(西ユニット)		
所在地	岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	平成27年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0393000088-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」をモットーに職員、利用者共に毎日を充実し笑い声が聞こえるように安心して生活出来る環境作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域にあった小学校が廃校となったことをきっかけとしてつくられた事業所である。2ユニットあるが、それぞれ特徴があり、それに合わせて職員が対応を工夫している。自宅にしているような生活を支えており、外に出たいときは外に出て、日向ぼっこをしたり、事業所前の道路を歩いたりする。地域の方に声をかけられて野菜をいただいたり、「ジャガイモ堀を一緒にしませんか」と声をかけていただいて出掛け、たくさんのジャガイモをお土産にいただいたりする、ほっこりとした生活がそこにある。近くに商店がないためまとめて食材を配達してもらい、毎回担当者が何をつくらうかと首をひねる。地元の食材を使った田舎料理が人気である。できるならば利用者と一緒に買い物をして食べたいものを作りたいとの企画を検討中である。雨の日などは体育館でボールを使った活動をしたり、散歩をしたりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『日々笑顔、日々楽しく、あなたらしさを支えるケア』を理念とし職員が利用者に対して安心と満足を提供している。	開所当時の理念を再度話し合っ作り上げた理念である。今後はこの理念を日々のケアにどのように具体化していくか検討したいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり施設の行事への参加も案内し交流している。	納涼祭や敬老会などは、体育館に畳を敷き、地域の方に踊りを披露していただいたり、屋台を手伝っていただきながら盛大に開催している。校庭の草刈りなども地域のボランティアに協力をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践経験が浅く地域への貢献は出来ていないが、貢献できるような体制作りはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動を報告している。会議での事項やグループホームからの相談について話し合い意見を貰っている。	会議の中で 行方不明者検索マニュアルの原案を検討していただき、実際に役立つものに作り替えている。また、苦情受付担当者を1名から2名に増やすことについても助言をいただき、変更している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月地域ケア会議に出席し、役場の担当者地域包括センターと連携を取っている。	地域ケア会議で入退居の情報交換や事例検討が行われている。村との相談で緊急性の高い方を受け入れたりしている。村から介護ロボットの紹介があり、納涼祭で披露した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為玄関に施錠の工夫と身体拘束しない介護に取り組んでいる。	以前に利用者が転倒骨折したことを契機に、ふらつきのある利用者の転倒を防ぐために センサーを使っている。	身体拘束について、身体拘束をしないための介護についての研修会が望まれる。センサーの必要な利用者には同意を得るとともに、使う時間を短くするなどの介護の工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について学び知識をつけ、個々に防止に務めている。入浴時、更衣交換時身体の異変がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性の話し合いはしていないが必要時には、包括支援センターと連携して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、契約内容及び重要事項説明書で家族にわかりやすく丁寧に説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や苦情窓口を開設している。利用者には、日々の日常会話から聞いている、家族には、面会時や運営推進会議に出席していただき意見や要望を聞くようにしている。	夏まつりの後に家族会が開かれ、4家族程が参加している。その場で誰が面会に来ているのかを知りたいとの要望を受けて、利用者ごとの面会簿を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談や管理者会議を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。	布団干場をつくってほしいとの職員からの要望を受けて設置されている。また、ユニットごとの職員は、利用者との顔なじみの関係を大切にしたいとの声から固定するよう配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する勤務条件に出来る限り応えている。昇給、資格手当、夜勤手当、賞与の支給に努めている。資格取得の為研修等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会交流会に可能な限り参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して利用できるよう説明をしている。要望を聞き信頼関係を築くようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して利用できるよう説明をしている。要望を聞き信頼関係を築くようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を提供するように努めている。必要に応じ他の関係機関と連絡している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が間に入り利用者様同士でゲームや軽作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を利用し情報交換を行っている。遠方の家族には、電話、手紙にて相談、近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等には、見学に行き交流出来るよう努めている。	地元の床屋さんに来てもらって散髪をしたり、病院に出掛けた際に馴染みの床屋で髪を切ってもらったりしている。以前住んでいた場所の自治会長さんが面会に来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間での情報共有をはかり、利用者様同士が良い関係を保てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までは、なかったが今後あれば、相談や支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの意向を聞き、会議や申し送りにて情報共有している。	自分の思いを恥ずかしさから、口に出せない利用者もいるので、行動を観察する中で職員が察するように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り他で、サービスを利用している場合は情報を聞くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報共有ケース記録に細かく記入する事により情報を把握するよう務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングの提出、カンファレンスを行い現況確認、改善等話し合い作成している。	利用者ごとに担当職員がおり、担当を中心にケアプランを検討している。	利用者のその時々のおもいをもとに、達成可能な目標かを設定し、そのために何が出来るかをチームで検討し、具体的な支援につなげることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し申し送りやカンファレンスにて情報共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、通院、自宅への付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分ではない。散髪を地元の理容所の訪問により行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応や施設対応にて受診している。必要に応じて受診結果を報告をしている。	家族が受診に付き添うのは1~2名のみで、他は職員が通院支援を行っている。診察結果について、家族に電話で報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないので利用者様に変化が見られる際には、すぐ協力医療機関に受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	来診したり電話などにて情報交換に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からは話し合っていない。そのような状況になった場合、医師家族施設で今後の方向性を話し合っている。	事業所の設備として特浴がなく、看護師の配置もないことから看取りは難しいと考えている。入居時に特養への申し込みを勧めている。しかしながら利用者のここに居たいとの希望を叶えるために何かできないかと模索中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で数人が訓練を行っている。個別の心肺蘇生AED取扱い訓練は、10月に行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力をしてもらい避難訓練を実施している。	地域の協力隊のメンバーに呼びかけて避難訓練を行っている。地域の方には外での見守りを担当していただいている。夜間想定避難訓練を交代で行うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な声掛けに配慮した言葉使い等心がけて対応している。	排泄時は、職員はそっとその場を離れるなどの配慮が行われている。利用者によって、触れてはいけない(話してはいけない)事柄を職員が把握しており、話題にしないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で希望を聞いたり、選択的に自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に本人のペースにて過ごして貰っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には着替えたり、入浴後のクリームを付けている方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から希望の料理や行事季節の料理を提供している。煮干しの頭を取り、もやしのひげを取り、皮むきなど手伝ってもらい、利用者と職員と一緒に食事をするようにしている。	冷蔵庫の食材を見て利用者の希望を聞きながら、献立を決めている。野菜の下ごしらえや茶碗洗い、食器拭きは4~5名の利用者が行っている。2ユニットあるが、それぞれ献立が違い、地元の食材が多く使われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を記録、把握し不足にならないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、夕食後の義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々に声掛けを行いトイレ誘導の支援を行っている。	排泄チェックを利用者の動きや臭いで、さりげなく行い、リハビリパンツ等の交換の声掛けを行っている。半分程の利用者は、自分で排泄可能となっており、見守りが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らないように、水分量、乳製品の摂取、体操や運動を行うよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回入浴を提供している。個々に合わせゆっくりと会話しながら、入浴を楽しむよう支援している。	週に2～3回入浴できるような声掛けが行われている。入るまで億劫がる方もいるが、入ってしまえば気持ち良いと話すので、声掛けを工夫している。入浴後に洗濯し干す習慣となっており、午前中に入浴が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やソファにて自由に休息出来るよう配慮している。起床、昼寝、就寝等も自由に出来る。湯たんぽを利用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報にて確認出来るようになっている。個々に分け薬を保管し服薬時に見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じ、草取りや居室、廊下掃除、ドライブ、塗り絵、将棋等楽しむよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やイベントの見学に出かけている。家族と外出外泊する方もいる。	事業所前の道路を2～3人で散歩し、近所の方と挨拶を交わしたり、野菜をいただいたりしている。元校庭の旗の掲揚台付近は、利用者のお気に入りの日向ぼっこの場所である。利用者の希望でドライブに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持っていたり、施設で預かっていたりしている。希望に応じ外出にて買い物出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯でやり取りしている方も何人かいる。家族から電話ある方もいるがそうでない方は、こちらから電話連絡する支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、季節ごとの展示物を行っている。日中でも暗い時は、証明、エアコンにて、快適な生活環境を管理している。	元小学校の校舎を改築して使用しており、木のぬくもりが感じられる。体育館は行事の際の憩いの場として、雨が降った時は散歩や、ボールを使つての活動の場として、活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ-食堂のソファ-にて談話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家族の写真遺影を置いている方もいる。	部屋の大きさやベッドやクローゼットの配置も異なることから、それぞれの居室の印象が異なる。整理筆筒やテレビ、家族の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の表示、居室内の家具等の配置に配慮している。食席から大所が近いので音や匂いでも分かるようにしている。		